



明治大学校友会
福岡市地域支部だより

明治大学校友会福岡市地域支部事務局
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4-1-2
セントラルホテルフクオカ内
TEL 092-712-1212

風のふくおか

29号

2012年1月

明治大学では創立130周年を記念して、
6つの施設整備計画が進行中です。



1
生田キャンパス第二校舎1号館(仮称)竣工
2011年12月

2
和泉キャンパス、
新図書館(仮称)開館
2012年4月



3
新黒川農場(仮称)開場
2012年4月

4
駿河台キャンパスC地区・
新教育・研究棟竣工
2012年12月



5
東京・中野に新キャンパス開校
2013年4月



6
明治大学スポーツパーク(仮称)
整備計画
2014年利用開始予定

謹賀新年

支部長年頭ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。校友の皆さまには輝かしい平成24年、壬辰の年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より明治大学並びに明治大学校友会福岡市地域支部の活動に対し、ご理解・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。



昨年3月11日、わが国に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、早10ヵ月が経とうとしています。改めて、多数の尊い命が失われたことに、深く哀悼の意を捧げるとともに、被災された皆さまへ心からお見舞い申し上げます。

さて母校明治大学は、本年創立131年目を迎えます。明治大学は、その歴史と「権利自由」「独立自治」の伝統を礎に、改革を推し進め、「世界に開かれた大学」を目指して躍進しています。また『個』を強くする大学として、未来を切り拓く人材の育成に努め、常に新しいことへの挑戦を続けています。その取り組みが、若人達に魅力ある大学として高く評価され、2年連続大学入試志願者数日本一という成果に表れているのではないのでしょうか。

一方、最近の学生・OBの活躍にも目を見張るものがあります。例えば、硬式野球部の昨秋の明治神宮大会優勝や、競争部の箱根駅伝での活躍、OBでは、女子ワールドカップサッカーで、なでしこジャパンを世界一に導いた佐々木監督の活躍などです。校友として、校友会のスローガンである『明治はひとつ』を直に感じ、母校を誇りに思うことができるのは、この上ない喜びです。

現在校友会福岡市地域支部としましても、母校明治大学の発展に寄与し、会員相互の親睦と交流を目的に、諸先輩の良きリーダーシップと後輩の皆さんの協力を得ながら校友会活動を展開しています。

これからも福岡市地域支部では、特に若年層や女性が「参加したい校友会」を目指し、さまざまな活動をさらに魅力的なものにパワーアップし、校友の方々の輪がさらに広がるよう尽力してまいります。その為にも校友の皆さまには、一人でも多くのご参加を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、母校明治大学の益々の発展と校友の皆さまの一層のご健勝とご多幸を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成23年度福岡地域支部総会・懇親会の開催レポート

福岡市地域支部は9月9日、23年度同支部総会・懇親会をセントラルホテルフクオカで開催した。当日は福岡市地域支部所属の校友をはじめ、福岡県父母会や大牟田、久留米、小倉、八幡の各地域支部の来賓など、約100名が出席。総会に先立って登壇した小川弘毅支部長は「本年は母校が創立130周年を迎えるというお目出度い年。受験者数も増加傾向にあり、我々も頑張らないといけないと身が引き締まる思いだ。また、震災支援の募金活動では多くの校友の協力があつた。その他、紀伊半島での台風被害など、今年はいろいろと大変なことが続いた。そんな中、明大出身の佐々木のりお監督率いる“なでしこジャパン”が女子サッカーのワールドカップで優勝した。そのことが日本に元気を与え、その監督が明大出身であることを知って嬉しく思った。現在、地域支部では校友会の裾野を広げるべく、活性化委員会が立ち上げられた。その活動に期待したい」などと、あいさつした。

総会では矢谷学幹事長により前年度の活動報告な

らびに収支決算書、今年度の予算案の報告と井手安美監査役による監査結果の報告があり承認された。また、幹事会の中に活性化委員会が設けられ、幹事会の元で活動していく旨の報告がなされた。

その後、来賓紹介、絹笠順一県支部長の全国校友会副会長の退任セレモニーと続き、登壇した絹笠県支部長は「7月の代議員総会で4年の任期を終え、全国校友会副会長を退任した。現在、全国校友会相談役という立場にあるが、明治のOBであることに誇りを感じている。これからも“一生青春”“一生修養”の精神で頑張りたい」と、謝辞を述べた。

祝電披露に続き、勢小倉地域支部長の乾杯の音頭で始まった懇親会では活性化委員会の委員長紹介や出席した校友の近況紹介、新入会者の紹介などが行われた。そして、恒例となったアトラクションの“ムカデゲーム”で盛り上がった後、福岡県父母会会長でもある津島潔校友の指導による校歌斉唱で散会となった。



“世界へ——「個」を強め、世界をつなぎ、未来へ——”



我らが母校明治大学は今年130周年を向かえた。“世界へ「個」を強め、世界をつなぎ、未来へ”を記念事業のコンセプトとして、11月1日の記念式典をはじめ、若き研究者育成のための懸賞論文コンテストやシンポジウム開催、海外との交流試合や記念講演会などが行われた。さらには施設整備計画として黒川農場整備計画、スポーツパーク整備計画、生田第2校舎1号館整備計画、和泉図書館整備計画など計画されている。

校友会でも創立130周年を記念して第47回全国校友東京大会が11月3日開催された。その東京大会をレポートしたい。式典はアカデミーコモンのアカデミーホールで、その後の懇親会は帝国ホテルで行われた。式典ではアカデミーホールに入りきれない参加者のために、リバティータワーの1階ホールにも別会場が設けられ式典の様子がスクリーンに映し出された。福岡県関係では福岡市地域支部や県下の各地域支部から約30名近くの校友が参加した。式典では、納谷学長が「どういう時代認識を持つか」というコンセプトで先を見た動きをしようと言われ、来賓の猪瀬直樹東京都副知事（氏は20代の頃、明治大学の大学院で勉強をされた）は明治大学の130年は戦前の65年、戦後の



65年に分けられるが、これからは「災後社会」にはいる。3.11の震災の時、明治大学には帰宅困難者を1500人受け入れても

らったが、今後の社会においては公助・共助・自助をバランスよく考えなければならないと話された。また、千代田区長の石川雅己氏は「明治大学は千代田区の誇りだ」と挨拶された。

また記念講演会では、(株)ホリプロの最高顧問の堀 威夫氏（昭和30年商学部卒）が「いつだって青春 ～数多の逆境を乗り越えて～」というテーマで話をされた。ワゴンマスターズというグループでの音楽活動や、守屋浩や水原弘などとの交流、森昌子や桜田淳子、山口百恵の3人娘誕生の秘話などを話された。浮き沈みが激しい芸能界の中でどうやって勝利の女神を味方につけるかを考え、気のエネルギーを信じながら頑張ってきたなどと話された。興味深い話だったので講演時間が短く感じられた。

帝国ホテル「孔雀の間」で行われた懇親会では、約2300名の校友が一同に会したが、大ホール全体が明大校友一色の光景はまさに圧巻だった。真野孝志大会実行委員長の歓迎の挨拶のあと、ジャカルタ紫紺会の皆さんとのスカイプ中継があり、村山富市校友会名誉会長の乾杯のもと懇親に入った。アトラクションとしてプロのビッグバンドの演奏（「生のビッグバンドの演奏も時には



よかね」と話し声が・・・)や、躍動感あふれる応援団吹奏楽部バトンチアリーディング部のパフォーマンス（軽快に飛び跳ねる後輩たちの躍動感あふれる動きに皆さん釘付けだった）に会場は一気にヒートアップした。終盤には応援団OBの明大節が披露され、最後に帝国ホテル全体に響くような大合唱で校歌を斉唱し、会は終わった。母校を愛する校友の熱気を感じた一日だった。

今日の明治大学の発展が、母校を愛する多くの先輩方の強い思いや行動によるものである事はまちがいない。これから140年、150年、200年と未来に向かって伸び続ける母校の発展を確信しながら帰途についた。



9月17日の台湾支部総会に、同期の中村徳子校友を相棒に初参加してきました。2人とも初めての台湾をフリーで楽しもうと個人でチケットと宿泊先の手配をしたのですがここに大きな落とし穴がありまして、15日の出発当日私だけ旅立てないという事態に陥りました。私のパスポートの残存期間が3ヶ月を切っていた為、これでは入国許可が下りないと足止めされたのです。‘残存期間～?’と無知だった私は慌てふためき、上月先輩や台湾の周先輩を巻き込んでの大騒ぎになりました、結局、緊急でビザを発行して貰い、翌日出発したのですが何とも波乱の幕開けでした。

16日、1日遅れで台湾入りした私は無事中村校友と合流し、この日は周先輩に台北市内を案内して頂きました。特に人で賑わう夜市は面白く、色々つまみましたが、はて何と言う食べ物なのか未だに謎です(笑) 17日の総会当日も午前中はタクシーで観光に繰り出し、台湾の2大縁結びスポットを巡り、安くて美味しい昼食をとってホテルに戻りました。

総会には二人して和装で出席し、沢山の台湾支部の校友の方々と交流を深めてきました。時間切れで全テーブルを回れなかったのは残念ですが、女性や同期の校友と親しくなり、今もFacebookを通じて



やりとりしています。総会後の2次会では台湾支部の桑原先輩が営むピアノバーにいったのですが、台湾に赴任している音楽好きの方々が集まりセッションを行うお洒落で素敵なお店でした。

翌18日は台湾経済セミナー受講組と花蓮ツアー組に分かれて行動しましたが、私達は花蓮ツアーに混ぜて頂き、絶景の太魯閣渓谷や大理石工場を見て回りました。昼食をとったお店で先輩方が奥様方へのお土産を厳選されている姿が実に微笑ましく、こんな旦那様を見つけなくてはと思いました。この日台北市内に戻った夕食会では西山先輩の還暦のお祝いも行われ、大いに盛り上がりました。

18日の経済セミナーは台湾支部鍾幹事長の企画で開催され、彼の友人で台湾行政院(総理府のような所)投資誘致サービスセンターの奚彰輝先生を講師に招き、台湾との経済交流の際の諸々の問題点(例えば人の問題、対役所との問題)などを話していただきました。絹笠支部長以下12名の校友が参加し有意義なセミナーになりました。



奚先生(左)と鍾幹事長(右)

19日、ツアーでいらした先輩方はこの日が帰国の日でしたが、滞在期間の長い私と中村校友は、午前中は同期の台湾支部の施さんに、夕方からは台湾に赴任している遠周先輩に市内観光に連れて行って頂きました。特に遠周先輩に連れて行って頂いたところは地元の方でないと行かなさそうな場所で、何と言う所に行ったのかこれまた未だに謎です(笑)

帰国する20日は、私より早く発つ中村校友を見送った後、ホテル周辺の街を一人探索して桃園国際空港に向かいました。波乱の幕開けだっ



太魯閣(タロコ)渓谷にて

た今回の旅も終えてみると、沢山の方との出逢いやご縁があって思い出深い、良い旅行でした。台湾にはまたプライベートでも是非遊びに行きたいと思っていますし、台湾支部の校友の方々とも台湾、あるいは日本でお逢いしたいと思っています。

明治大学という繋がりや、こうして海外の校友と知り合え、輪が広がっていくのは素晴らしい事だと

思うので是非もっと多くの方に機会があれば参加して頂きたいと思います。

私は次回はぜひ韓国校友会に参加して、同世代の校友と交流を持ちたいと思っています。

(H4営卒 今井 葉子)

中華民國建国100年 双十国慶節



會所長御夫妻を囲んで

中華民國は今年建国100周年を迎えました。明治大学校友会には台湾支部もあり、私たち福岡県支部ともお互いに交流を深めています。台北駐福岡經濟文化弁事所（領事館）の前所長 周碩穎氏が校友だったことで交流が深まり、毎年建国記念日の双十国慶節には県支部校友にも案内をいただいていたが、建国100周年の今年も、曾念祖所長より絹笠県支部長はじめ県下の地域支部校友に双十国慶節への案内を頂きました。折りしも先の明大校友会台湾支部総会（9月17日）に出席した校友もお祝いに駆けつけ、総勢20名近くの校友が参加しました。

10月7日（金）ホテルオークラでの式典には約400名近くの方が出席。まず會所長が挨拶され、孫文が1911年辛亥革命によりアジアで初めて共和国である中華民國を建国して100周年になったこと、台湾人にとって日

本は最も親しみを感じ一番親密な国であり經濟交流や文化交流もますます盛んになっていること、そして今回の東日本大震災に関して台湾政府がおくった義援金は全支援金額の2%にも満たず、残りの99%近くは台湾の民間人が自発的に申し出たもので、災害復興にはわずかな額だが台湾人の日本に対する深い愛情と関心を表すものなどと話されました。

懇親会では獅子舞のダイナミックな踊りや、民族衣装を着た若い人たちの踊り、そして豪華景品が当たる抽選会などで楽しいひと時を過ごしました。

その他にも台湾政府は、東日本大震災支援プログラム「台湾希望の旅」プロジェクトとして、岩手県、宮城県、福島県の東北3県の被災にあわれた居住者約1000人を順次14日間台湾滞在に招待するなど、温かい支援をしていただいています。改めて感謝の念を表したいと思います。



獅子の前で

明宅会

イースタン産業(株)

代表取締役 **野口 順四郎**

(昭和41年・法学部卒)

福岡市東区多の津4丁目8-1
TEL (092)611-4423



東の会

恒例の東の会が去る11月11日、中央区春吉の「金鷲」で行われました。今回の東の会には、昭和27年卒の小石原英照先輩から平成17年卒の古森則光君まで、幅広い年代の16名の校友が集まりました。また昭和29年卒の奥藺先輩も「時には顔出しとかんと忘れられるもんね」と笑いながら元気そうに顔を見せられました。

さてこういう会の醍醐味は、校友同士の会話と料理の美味しさです。平成卒の女賀君は、東の会の常連の広津先輩との会話も弾んでいたし、久しぶりの九産大の伊藤先生もワイン片手に先輩方や若手の校友との会話を楽しんでおられました。前菜の後のメイン料理では、お肉も野菜もたっぷりの食べ飽きな

い味の洋風なべで、料理を満喫しました。

27年の歴史を数える東の会は、現在やや参加者が減少しています。特に東方面在住の校友ということで括ってはおりますが、あまりこだわりは無く、久しぶりに参加される方も初めて参加される方も校友というだけで話が弾みます。是非多くの校友の参加を期待したいものです。



大変美味しい豚肉鍋を
食べながら交流を深めました！

「東の会」事務局

第6回 「西の会」開かる

恒例の西の会が今年も錦秋の候の11月19日に開かれました。西区の人を中心に23名が集まりましたが、今年は紅一点の女性校友を含め平成卒の参加者が3名あり、会の平均年齢をぐっと若返させてくれました。

例にならい幹事側からマスコミに発表され



室見にあります三四郎にて

ている“大学特集”からのダイジェスト—就職、出世、結婚、お金—資料と少しの説明が付け加えられ、中でも「超人気の明大男」という記事には一斉に歓声！「生まれるのが早かったあ！」美味しい料理と美酒、ユニークな自己PRを交えて楽しい時間が過ぎました。

最後は、小石原先輩の音頭で校歌、安永先輩の博多一本締めで又の再会を約束しました。

「西の会」事務局

第8回 南の会 忘年会

急に寒さを覚えた去る12月10日土曜日、毎年恒例となりました南の会の忘年会が盛大に開かれました。早いもので回を重ねること8回目の開催で、今年は平成会から8名の若手も参加していただき、総勢49名の老若男女が大橋の田すずめに集合しました。

冒頭、神永会長の今年一年を振り返っての挨拶、明治大学体育会の諸々の活躍報告がなされ、次いで12月開催ということを考慮されたのでしょうか、峯重先輩による大東亜戦争の時の話から、震災や色々な経済状況、政治状況の厳しい中だが、乗り越えて日本をよくしていこうと話されました。元気印の平成会女賀会長からは、次回開催には倍の16名は参加できるように若手の活性化を図りたいとの抱負が語られ、井手活性化委員長からも5年後10年後の福岡市地域支部のありかたや活性化についての報告がなされました。

ここまで申し上げると何だか、堅苦しい会合のよう感じられる方もおられるでしょうが、そこは飲み方大好きな「南の会」です。開始時間前から全員飲み始め、挨拶の途中も料理に箸をつける校友など和気あいあいのなか、田中久也先輩にはあらためて

乾杯の音頭をとっていただき、ご苦勞をかけました。じつは今回、支部から南区在住校友の住所を再度提供いただき、未案内の方々数十名へご案内しましたところ、



若手平成会も気合を入れて
参加してくれました

10名の初参加をいただき、それぞれに自己紹介がありました。時間が経つのは早いもので、あっという間の3時間が経過し、峯重・安永・光安先輩方の音頭により全員で「祝いめでた」を大合唱、次いで出席者中の大御所、小石原英照大先輩の指揮のもと「明治大学校歌」斉唱にて大いに盛り上がり、滞りなく終了できました。

「南の会」では住まいは問いませんので、出席してみたい校友がいらっしゃいましたら、矢谷幹事長まで連絡してください。次回開催時にはご案内いたします。

「南の会」事務局：S56政経卒 鈴木弘幸

第15回東京六大学OB会ゴルフ会

第15回東京六大学OB会ゴルフ会が立教大学幹事校で11月5日(土)福岡カンツリー倶楽部和白コースに於いて開催されました。今回は初めて参加者が100名を超え102名の大盛会でした。大学別の参加者は、東京21名、慶應13名、早稲田21名、法政17名、立教14名、明治16名でした。当日、スタート時は生憎の雨でしたが、昼前にはなんとか雨はあがり各組4校の組合せで懇親を深め和気あいあいにプレーを楽しみました。プレー終了後は一度解散し、夕刻に新装なった「八仙閣」に集合し、懇親会と表彰式を行いました。この大会はWP方式で上位5名のスコア合計で成績を決めるので、出場者が多い大学が有利になります。優勝に燃える東京大学・早稲田大学は20名を超える参加者で臨んできましたし、毎回上位に食い込んでくれる校友が数名欠席したので、今回は半ば諦めていました。しかし前半スコアの悪かった校友が後半挽回してくれて、20位以内に7名入る、圧倒的な差で優勝することが出来ました。成績に貢献しなかった校友は他の大学メンバーのスコアが上がらない様に足を引っ張ることで大いに優勝に貢



献したのと思っておりません。前回から各校の校歌を歌うようにしましたが、優勝校校歌の時は他の大学全員が起立してもらって歌い、大いに面目を施しました。優勝回数も慶應に並び3回になりましたが、早く法政を追い抜きたいと思っています。来年度24年は明治が幹事校ですので、プレーへの参加、運営の協力をお願い致します。



団体優勝 明治大学 363 2位早稲田大学 368
3位東京大学 368 4位法政大学 368.4
5位立教大学 372.8 6位慶應大学 378.2

個人優勝 木下 明 東京大学
42-37-G79-HD8.4-N70.6

明治大学上位3名
5位 佐田 浩彦 6位 藤瀬 浩幸 7位 佐々木 義宣

優勝回数
法政6回 慶應3回 明治3回 早稲田2回 立教1回

書籍紹介

『消える大学 生き残る大学』

著者:木村誠 価格:777円(税込) 出版社:朝日新聞出版

国立大学の法人化による現場の貧窮化、地方財政難で締め付けの厳しさが増す公立大学、少子化の影響で全体の4割が定員割れという状況の私立大学…。本書はこうした大学を取り巻く厳しい状況をレポートしている。その中で、生き残りをかけて奮闘している大学のひとつとして明治大学の取り組みも“明治大学、志願者数トップの原動力「全学部統一日程入試」”という見出しで紹介されている。明治の「全学部統一日程入試」は、複数の学部が、同じ試験日に共通の試験問題によって、受験できるというもの。しかも、同入試は本学をはじめ、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡の9会場で実施される。これとは別に従来の学部ごとの試験も実施。こうした地方の受験生を増やしたいという意欲的な取り組みが、それまで志願者数トップの座にあった早稲田を抜いて2年連続の志願者トップにつながったと著者は紹介している。本書の明治に関するくだりは229ページ中、約3ページ。だが、大学入試を控えたお子さんを持つ校友にとっては、志望校選びにさまざまなヒントを与えてくれる一冊といえる。



『「前へ」 明治大学ラグビー部 ～受け継がれゆく北島忠治の魂～』

著者:明大ラグビー部 価格:1,890円(税込) 出版社:カンゼン

本年大学創立130周年、来年には明治大学ラグビー創部90周年を迎える節目に、明治大学ラグビー部著『「前へ」 明治大学ラグビー部～受け継がれゆく北島忠治の魂～』が発売されました。この本は、北島忠治監督が1989年12月に、当時の社団法人社会経済国民会議様より刊行した『前へ 北島忠治 僕が明大ラグビーに求めたもの』の原稿をベースに、現状にあった内容を盛り込んだ明大ラグビー部復活に向けた書籍です。北島監督の指導理念や考えは、現代の若者や社会人に胸を打つ言葉ばかり。世知辛い現代だからこそ、昭和を生きた懐の大きな北島御大の生き様をぜひ読んでもらいたい一冊となっています。



新装版となる本書は、現役時代は明治、新日鉄釜石、日本代表でも活躍した福岡支部校友の森重隆氏 (S49年卒) をはじめとして、松尾雄治氏、藤田剛氏や元木由記雄氏など往年のOBのインタビューが収録されています。

また、書籍の一部写真をH21年卒の高山展誉氏が提供しています。書籍は、全国の書店、ジュンク堂福岡店、アマゾンにて発売中。



古賀愛人前支部長が亡くなられてはや2年たちました。以前、昭和31年卒の井手安美先輩から古賀前支部長との出会いの話をお聞きして、大変興味深いお話だったので是非文章をとお願いしていたところ、お忙しい中この度寄稿していただきましたのでここに掲載いたします。



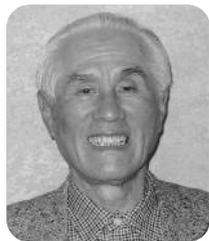
古賀愛人前支部長

人は他人の助けがあって生きていくものだが、私も沢山の人の助けられて今日まで生きてきました。中でも私は明大の先輩、同窓に多くの恩恵をいただきました。その一端を記します。

平成になってからの出来事で思い出すのは、前支部長の古賀愛人大先輩とのことです。平成4年九電工在職中、私が東京勤務となった時のこと、間近にフジテレビの本社社屋（東京お台場）の発注が迫っておりました。しかし、受注への手がかりは掴めず当社営業部社員の名刺さえ受け取ってもらえない状況にありました。そんな折、TNCがフジテレビの系列であり、TNCの古賀社長へフジテレビの紹介をお願いしてみようと思いつき、早速社長上京日を調べ、TNCの東京本社で初めてお会いしました。当時私は書面の上で古賀先輩の名を知っただけで面識はありませんでした。はじめ怪訝な顔をされておられましたが、フジテレビへの紹介をして頂くことになり、結果は紹介どころか期待以上の受注（電気設備工事）に結びつきました。総建築額が一千億円を越える物件で、通常なら

数年間の営業活動が普通であり、発注直前の駆け込み紹介で成功するなんてことはまずあり得ない事であり、社内でも受注を信じる者はいなかったのです。古賀先輩の人物の凄さを思い知らされました。また、この工事には後日談があります。この建屋の設備（電気、空調、給排水）の設計を担当した会社の主力が明大の卒論ゼミの後輩たちであり、いろいろと指導をしてくれ大いに助かり、母校の力を喜び、誇らしい思いを致しました。

古賀先輩とはこれを機会に、上京の際（月1回フジテレビの取締役会に出席）よく夕食を共にして頂く時間があり、色々と感銘を受けました。特記すべきは、当方で負担すべき時も食事代は全てワリカンでした。夜の銀座にも案内していただきました。営業上一流店が必要だろうと私の立場を参酌され、有名財界人等が出入りする店への紹介もして頂き有難いものでした。店では古賀先輩が歩んでこられた明大柔道部時代、軍隊時代、そして東京の記者時代の話面白く聞きました。中でも先輩の三木首相宅への毎夜回り、首班指名の際の票工作に代議士先生の肩代わりとしてモノを運んだ裏話など、普通では聞けない実に面白い実話をたくさん知ることが出来ました。銀座での支払いも私が先にサインをしておきましても、帰りがけには私のサインは黒く塗りつぶされていることが常でした。会食に限らずゴルフにお誘いした折も同様で、常に清廉で身边がキレイなことは際立った存在でした。人間のあるべき姿、手本を示して頂いた先輩でした。



(S31工卒 井手 安美)



株式会社 ホンダパーツ西南

Hondaの部品・用品の卸・販売会社

取締役会長 佐々木 義宣(昭和37年文学部卒・柔道部OB)

本社 〒816-0092 福岡県福岡市博多区東那珂3-2-12
TEL 092-433-0433

営業所 福岡・北九州・大分・佐賀・香川・徳島・愛媛・高知



他支部校友紹介① 大牟田地域支部 松嶋 盛人さん

●●● Topic

明大校友会福岡市地域支部のみなさん、こんにちは。

私は、生田校舎農学部農学科を昭和53年に卒業した松嶋盛人です。大牟田支部にお世話になっております。今回、縁あって校友紹介の栄を賜りました。



現在、私は、筑後市の筑後北中学校校長として勤務しています。教科は理科の専攻です。大学時代は、生田校舎で古武道部に所属し、沖縄古武術の練習に励んでいました。

その師範は、井上元勝先生でしたが、先生は明治維新の元勲である井上馨公爵、桂太郎元総理のお孫さんでした。武道武術の達人でした。先生のことばで印象に残っているものに、「普通の人でも、毎日同じこと（練習）をやっているならば、達人と呼ばれるようになるよ。」があります。感銘を受けました。今でもその会の理事を務めています。

また、私にはもう一つ特技があります。それは、『流鏝馬（やぶさめ）』といって、馬に乗りながら矢を放ち、三つの板的を射貫く武術です。これは、平安時代以降、公家から武家の嗜みとして広まったものです。大学3年当時より、小笠原清信教授（教職系の教科）の指南を受け、小笠原流『流鏝馬』をかれこれ36年続けて参りました。

その頃は、『流鏝馬』を行う人が少なく、後継者が必要だったようです。私は、馬が好きで、この年まで続けて参りました。『流鏝馬』は、すべて神事で、国の安泰や五穀豊穡、神からのご加護、家庭の安泰、病氣平癒などの祈願を兼ねての神社への奉納なのです。今まで私は、日光東照宮や鎌倉の鶴ヶ丘八幡宮、京都の下賀茂神社、島根県津和野町の流鏝馬神事を中心に参加してきました。自然災害、原発災害の日本の危機であるとき、国家の安泰と国民の平穏を願い奉納への気持ちを新たにして奉仕しています。

ご当地福岡では、西区の飯盛神社流鏝馬保存会の理事として21年携わってきています。毎年10月9日に奉納神事で解説等を行っています。

写真は、島根県津和野町の『流鏝馬神事』での騎射挟み物の演武です。

交流を深めたいと思います。是非、声をかけて下さい。



流鏝馬の様子



他支部校友紹介② 筑豊地域支部 大谷 英二さん

●●● Topic

悔いなきあの日の青春
嘉穂高校10年

この瞬間を待っていた。いつか思いがけぬ瞬間の訪れが来た。まじい。ただ自分自身と向き合っていた。あれは。嘉穂高校の青春の瞬間。大谷英二さん。嘉穂高校10年。この瞬間を待っていた。いつか思いがけぬ瞬間の訪れが来た。まじい。ただ自分自身と向き合っていた。あれは。嘉穂高校の青春の瞬間。大谷英二さん。嘉穂高校10年。

母校の飛躍願いながら

CHUKUHOU

教育・文化

1974年の高校総体を創した創道部。つらい練習の果てに栄冠を勝ち取った

大谷英二さん

吉岡輝城さん

大谷英二さんは、嘉穂高校10年。この瞬間を待っていた。いつか思いがけぬ瞬間の訪れが来た。まじい。ただ自分自身と向き合っていた。あれは。嘉穂高校の青春の瞬間。大谷英二さん。嘉穂高校10年。



筑豊地域支部事務局の大谷英二氏が西日本新聞のちくほう版で紹介されましたので掲載します。大谷氏は昭和54年政治経済卒で体育会剣道部OBです



「参加させる校友会から参加したい校友会へ」をめざしスタートした活性化委員会は、具体的に5つの委員会に分かれて支部の活性化を図る段階に入りました。現在の活動状況を皆様にお知らせいたします。

①青年・女性委員会では女性の会やピンクリボン活動、フリーマーケットなどオープンな活動を計画中。また、メンバーが出身高校で就活支援セミナーを行ったラクチコミだけで80名集まったとの事で、郷里で就職したい後輩を就職に結び付ける「福岡方式？」とでも言うような形も考えています。

②情報委員会は、実際に業者を呼んで新たなホームページの立ち上げの段階に入っている。その他メルマガの整理・登録方法を業者と調整中です。

③広報委員会では、長期で、且つ紙面で提供する情報は年2回発行の支部だよりで、短期での掲載は更新が早いホームページでお知らせするように取り組んでいます。

④企画委員会及び総務・財務委員会は校友の招集方法について検討しています。



60会は昭和60年代(昭和60,61,62、63年の3年間)に在学していた数少ない年代の集まりです。数年前から支部の枠を超えて活動しようと、九州各県の校友との交流を定期的に行っています。昨年は鹿児島島の校友と交流して来ました。

そして、今回4回目の60会忘年会旅行は大分、別府への旅でした。

博多駅で既にウコンを飲みいざ出発、メンバーは津島、坂口、新原(福岡市支部)、末金(久留米支部)、高橋(八幡支部)、そして高野(弱輩)と男子5人、女子?1人。ビールやらワインやらなんやらを飲みながら大分駅に到着。ここで改札には大分支部の藤井先輩が明治フラッグを持って出迎えてくれました。

宴会は大分支部の方と合同で関アジ、関さば、とり天と大分、味づくし。大分支部は矢野支部長を始め10人程の校友が、校友の結婚披露宴後という忙しいスケジュールの中、我々のために集まってくれました。2次会には大分支部の女性も参加していただき、大変な盛り上がりになりました。私達も福岡県校友のパワーを発揮してきました。

翌日は藤井先輩の運転のレンタカーで、別府の温泉へ。あー、また朝からビールに地獄蒸し卵、そして、温泉につかり、またビール。ここで



海地獄にて

飲んでばかりではいかんと、海地獄でも見てみよう、一応観光。そして別府名物、地獄蒸し料理で、蟹やら、肉やら、おいもやら、そしてビールに焼酎。なんだか結局、食べて飲んで、また飲んでのいつものパターンでした。が、さ来年(2013年10月5日)の全国校友大分大会へ向けて、盛り上がる大分支部の校友と交流して、大変満足した旅でした。さ、来年はどこに行きましょうかね?

このように支部の枠を超えて活動している60会です。是非、当てはまる校友がいらっしゃいましたらご一報ください。

(平元法卒 高野 礼子)

機能だけではなく、
快適という基準
今からのまちに必要だと思う。
誰もが感じる気持ちよさ
これからもいろんなところで
カタチにしていきたい。



いつも人が 発想の原点。



あまり比較するのもなんですが・・・

雑誌「プレジデント」10月号に見る大学の就職、出世、結婚、お金についての各種ランキング

国家公務員I種試験に強い大学

順位	学校名	人数
1	東京大学	444
2	京都大学	167
3	早稲田大学	105
19	明治大学	11

役員になりやすい大学

順位	学校名	人数
1	慶應義塾大学	1323
2	早稲田大学	1107
3	東京大学	945
7	明治大学	417

司法試験に強い大学(合格者数)

順位	学校名	人数
1	東京大学法科大学院	210
2	中央大学法科大学院	176
3	京都大学法科大学院	172
6	明治大学法科大学院	90

地方公務員に強い大学

順位	学校名	人数
1	日本大学	782
2	北海道教育大学	625
3	愛知教育大学	593
10	明治大学	369

就職に有利だと思える大学

順位	学校名	%
1	早稲田大学	53.0%
2	東京大学	51.5%
3	慶應義塾大学	36.4%
7	明治大学	21.7%

(一部大学には院卒を含む)

公認会計士に強い大学(合格者数)

順位	学校名	人数
1	慶應義塾大学	251
2	早稲田大学	221
3	中央大学	152
4	明治大学	98

社長になりやすい大学

順位	学校名	人数
1	慶應義塾大学	280
2	早稲田大学	178
3	東京大学	155
7	明治大学	57

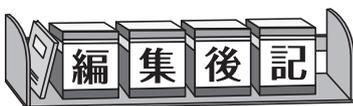
しかし、結婚のコーナーでは“超人気の明大男”という見出しがっていた事をお知らせしておきます。

新年交礼会のご案内

福岡市地域支部の新年交礼会を下記の通り開催いたします。是非ご出席下さい。

- 日時 平成24年1月20日(金)18時30分
- 会場 セントラルホテルフクオカ・3Fダイヤモンドホール
福岡市中央区渡辺通4-1-2 TEL092-712-1212
- 会費 5,000円
(但し、女性全員及び平成16年以降卒の校友は4,000円)
- 問い合わせ先
事務局 矢谷 学(昭50法)
TEL092-631-3336(三栄印刷)

*準備の都合上1月13日までに欠席をお知らせ下さい。又、ご案内状が届いていない校友でご出席の方は、電話にて事務局矢谷迄ご連絡下さい。



校友の皆様 新年おめでとうございます。昨年は東日本大震災や福島原発事故で、日本中に激震が走り多くの国民が悲しみに暮れた大変な1年でした。忘れてはならない出来事です。さて今年は辰年。苦難を乗り越えて上り龍のごとく登りたいものです。母校明治大学も昨年創立130周年を向かえ、ますます発展しています。表紙にも掲載していますが、新しい施設やキャンパスの整備などが計画され、これからの発展が益々楽しみです。

皆様に喜んでもらえる広報とはどんな事だろうと試行錯誤しながら、支部だより「風のふくおか」は今回29号を数えました。色々なご意見やアドバイスも頂いております。これからも大学や校友会の情報提供、校友同士の交流会、それにユニークな活動をしている校友の紹介な

ど、皆さまに喜んでもらえる紙面づくりをめざしていきます。ご意見や提案などありましたらお寄せください。なお、今回より平成元年文学部卒の斉藤博文さんに編集委員に加わっていただきましたのでお知らせいたします。また、いつもながらいつも広告の協賛にご協力下さいます校友の方々にお礼を申し上げます。

- 編集委員長 本田 博志 (昭52法)
- 委員 佐野 貞和 (昭59工)
- ” 斉藤 博文 (平元文)
- ” 今井 葉子 (平4営)
- ” 中村 徳子 (平4営)
- ” 石迫 弘久 (平8文)
- ” 女賀 信治 (平9商)
- 校友会事務局 矢谷 学 (昭50法)
- ” 高野 礼子 (平元法)